

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和8年第37週 (ARIのみ第36週) の発生動向

□ 全数報告の感染症 (37 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 2 例。
3 類感染症：報告なし。4 類感染症：日本紅斑熱 1 例。
5 類感染症：梅毒 1 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	40歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			50歳代	男	肺結核	なし
4類	日本紅斑熱	小林	70歳代	女	—	頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常、その他
5類	梅毒	宮崎市	30歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 266 人(定点当たり 16.7)で、前週比 109%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、RSウイルス感染症、流行性角結膜炎で、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

また、第 36 週の急性呼吸器感染症の報告総数は 1,029 人(定点当たり 36.8)で、前週比 97%とほぼ横ばいであった。

【インフルエンザ】

報告数は 54 人(1.9)で、前週比 225%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.30)の約 6.4 倍であった。年齢群別は 15 歳未満が全体の半数を占めた。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

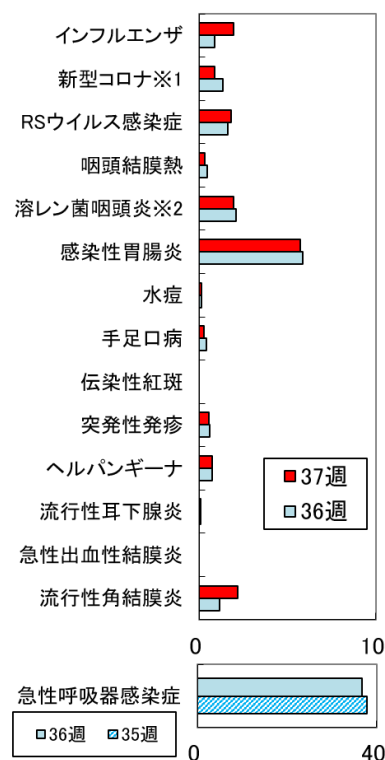
報告数は 29 人(1.9)で、前週比 94%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.4)の約 1.4 倍であった。年齢群別は 5 歳から 7 歳が全体の約半数を占めた。

【感染性胃腸炎】

報告数は 86 人(5.7)で、前週比 98%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(6.7)の約 0.9 倍であった。年齢群別は 1 歳から 2 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015—2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

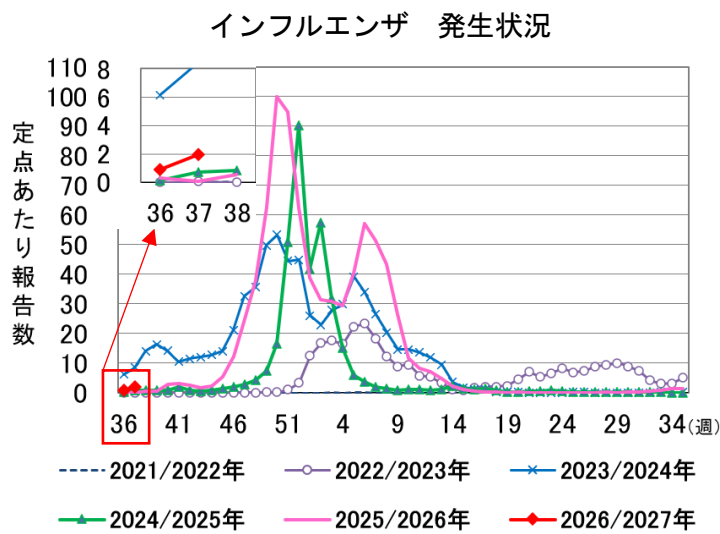
《前週との比較》



定点あたり報告数

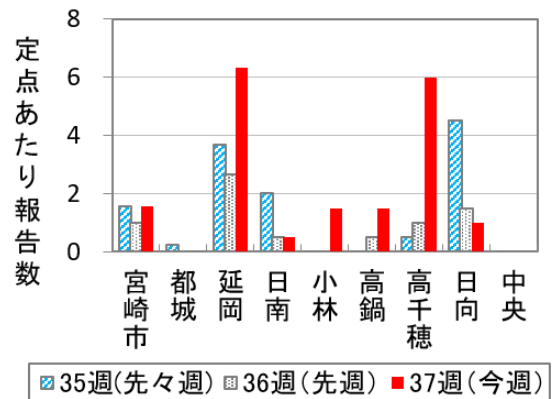
※1 新型コロナウイルス感染症

※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

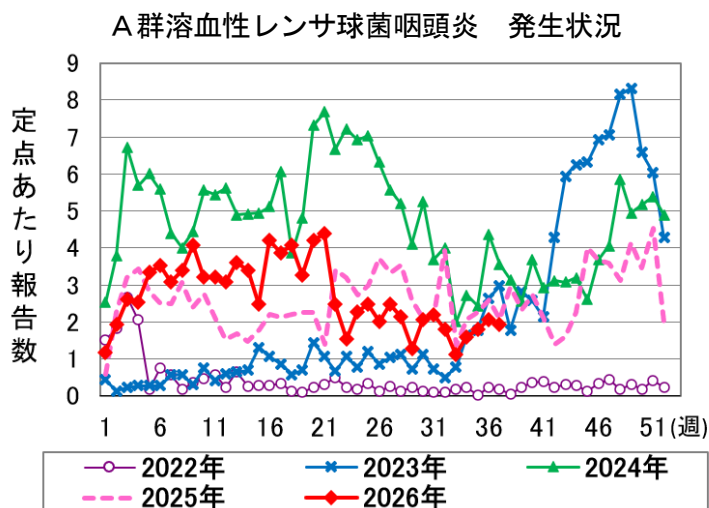
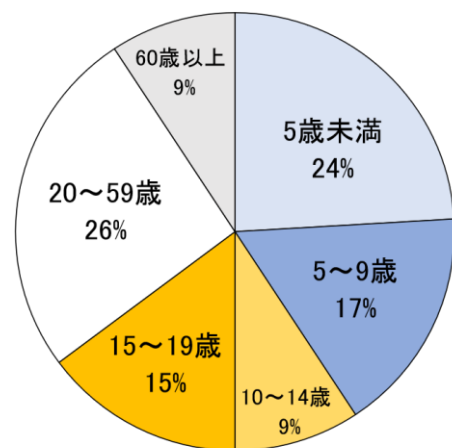


※2025年第15週からは定点医療機関数が58から28に変更

インフルエンザ 保健所別推移(3週分)

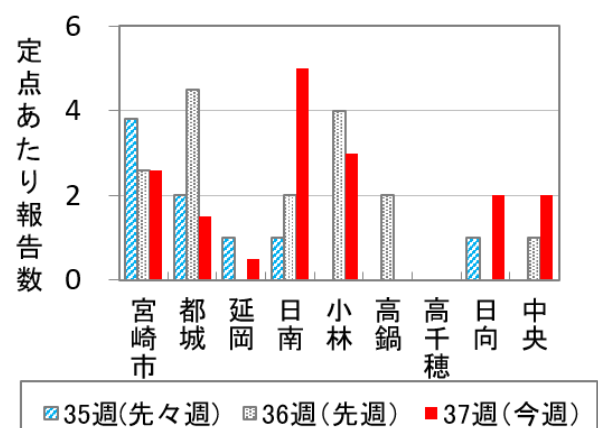


インフルエンザ 年齢群別グラフ(第37週)

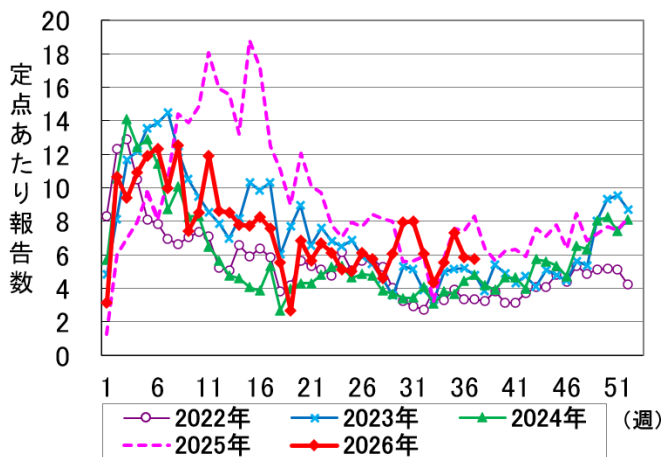


※2025年第15週からは定点医療機関数が36から15に変更

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 保健所別推移(3週分)

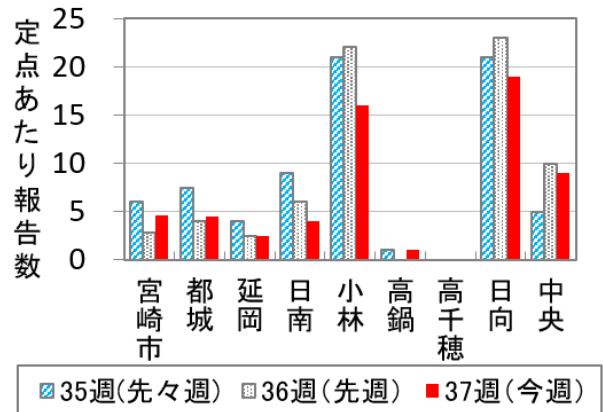


感染性胃腸炎 発生状況



※2025年第15週からは定点医療機関数が36から15に変更

感染性胃腸炎 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★

○無菌性髄膜炎：報告数は1例(定点当たり0.14)で、延岡保健所から報告があった。年齢は0～4歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性角結膜炎(10.0)
日南	水痘(2.0)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

※流行警報レベル開始基準値※

- ・水痘(2)
- ・流行性角結膜炎(8)

※流行警報レベル開始基準値、流行注意報レベル基準値は令和6年度まで運用した参考値です。

□病原体検出情報(衛生環境研究所微生物部)

★急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection: ARI)

(第36週:8月31日～9月6日搬入分)

検出病原体			検出数
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	0
	B型	ビクトリア系統	0
		山形系統	0
新型コロナウイルス			1
RSウイルス	A型		0
	B型		2
パラインフルエンザウイルス	1型		0
	2型		0
	3型		1
	4型		0
ヒトメタニューモウイルス			0
ライノウイルス			0
エンテロウイルス			1
アデノウイルス			0
検出せず※2			6
受付検体数			11

○ 急性呼吸器感染症 (ARI) ※¹サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※1 急性呼吸器感染症 (ARI) : 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

(細菌・ウイルスについては 2026 年 9 月 14 日までに検出分)

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EHEC (O157:H7)	40歳代	男	2026.08.17	肝機能障害	便	2026.08.26
Salmonella Thompson (O7:k:1,5)	40歳代	男	2026.08.19	発熱、頭痛、下痢	便	2026.08.27
Salmonella Thompson (O7:k:1,5)	10歳代	女	2026.08.25	発熱、嘔気・嘔吐、腹痛、下痢	便	2026.09.02
EHEC (O157:H7MN)	30歳代	女	2026.08.28	なし	便	2026.09.10

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Coxsackievirus A6※	0～4歳	男	2026.06.08	急性気管支炎、39.3℃、咽頭炎	鼻汁	2026.09.04
Adeno virus 2※						
Influenza virus A H1pdm09※	40歳代	女	2026.08.19	インフルエンザA型、関節痛、咽頭痛	鼻腔ぬぐい	2026.09.08

※ ARI 病原体定点から検出されたウイルスのうち、分離されたウイルスも再掲

○インフルエンザ A 型と診断された患者からインフルエンザ AH1pdm09 が分離された。2025/2026 シーズンは全国的にインフルエンザ AH3 と B (ビクトリア系統) の流行が見られたが、2026/2027 シーズンは初週 (第 36 週) の全国での分離・検出報告によるとインフルエンザ AH1pdm09 のみが報告されている。今年は感染症法が施行された 1999 年以来、2009 年に次いで二番目に早い流行入りとなっており、咳エチケット等の予防策の推奨とともにワクチン接種の検討が重要である。

📊 全国 2026 年第 36 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	257 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	137 例		
4類感染症	E型肝炎	6 例	A型肝炎	10 例	エムボックス	6 例
	ジカウイルス感染症	2 例	重症熱性血小板減少症候群	5 例	つつが虫病	1 例
	デング熱	6 例	日本紅斑熱	16 例	ライム病	1 例
	レジオネラ症	53 例	レプトスピラ症	2 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	10 例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	11 例	急性脳炎	11 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	22 例	後天性免疫不全症候群	11 例
	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例	侵襲性肺炎球菌感染症	18 例
	水痘(入院例)	13 例	多剤耐性緑膿菌感染症	2 例	梅毒	162 例
	播種性クリプトコックス症	3 例	破傷風	5 例	百日咳	46 例
	麻しん	2 例				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 118%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症及び感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は手足口病であった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 120%と増加した。

インフルエンザの報告数は 12,299 人(3.3)で前週比 187%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.24)の約 14.0 倍であった。沖縄県(10.3)、新潟県(6.1)、神奈川県(5.9)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 6 割を占めた。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 7,777 人(2.1)で前週比 141%と増加した。栃木県(5.6)、新潟県(5.3)、長野県(4.4)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 6 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 8,679 人(3.9)で前週比 105%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(3.5)の約 1.1 倍であった。岐阜県(6.6)、大分県(6.5)、群馬県(6.4)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 2 歳が全体の約 3 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015-2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2026 年 8 月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は31人(2.4)で、前月比97%とほぼ横ばいであった。また、昨年8月(3.4)の約0.7倍であった。

《疾患別》

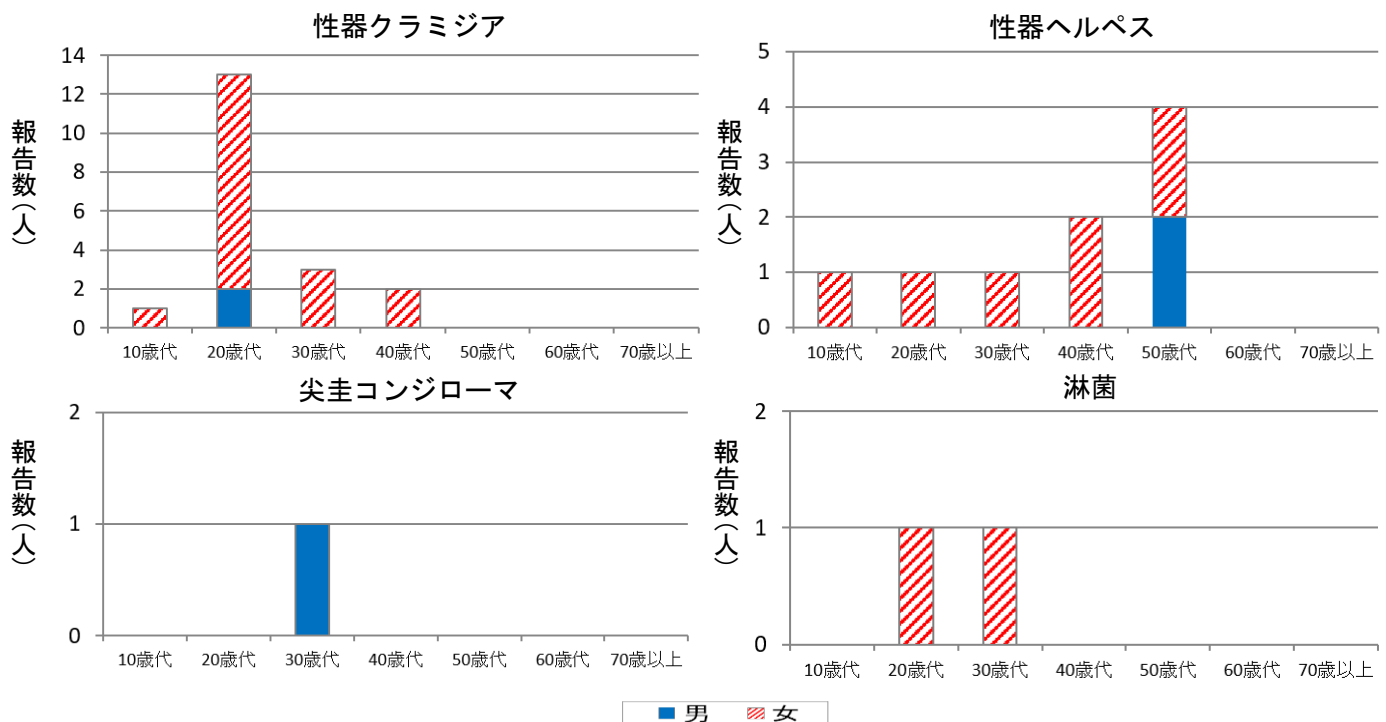
○性器クラミジア感染症：報告数19人(1.5)で、前月の約1.1倍、昨年8月の約0.7倍であった。

20歳代が全体の約7割を占めた。(男性2人・女性17人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数9人(0.69)で、前月の約1.3倍、昨年8月の約0.8倍であった。(男性2人・女性7人)

○尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月の約0.5倍、昨年8月の約0.3倍であった。(男性1人)

○淋菌感染症：報告数2人(0.15)で、前月の約0.4倍、昨年8月の約0.5倍であった。(女性2人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,109人(4.3)で、前月比92%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,132人(2.2)で前月比92%、性器ヘルペスウイルス感染症891人(0.93)で前月比89%、尖圭コンジローマ484人(0.51)で前月比93%、淋菌感染症602人(0.63)で前月比94%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は21人(3.0)で、前月比105%と増加した。また、昨年8月(1.7)の約1.8倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数21人(3.0)で、前月の約1.1倍、昨年8月の約1.8倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,266人(2.7)で、前月比98%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,238人(2.6)で前月比99%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症28人(0.06)で前月比75%であった。

疾病名		第36週	第37週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	24	54	14		19	1	3	3	12	2	
	定点当り	0.86	1.93	1.56	0.00	6.33	0.50	1.50	1.50	6.00	1.00	0.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	38	25	5	1	6	1	3	1	8		
	定点当り	1.36	0.89	0.56	0.25	2.00	0.50	1.50	0.50	4.00	0.00	0.00
RSウイルス感染症	報告数	24	27	19	4	1			1		1	1
	定点当り	1.60	1.80	3.80	2.00	0.50	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	7	5	4							1	
	定点当り	0.47	0.33	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	31	29	13	3	1	5	3			2	2
	定点当り	2.07	1.93	2.60	1.50	0.50	5.00	3.00	0.00	0.00	2.00	2.00
感染性胃腸炎	報告数	88	86	23	9	5	4	16	1		19	9
	定点当り	5.87	5.73	4.60	4.50	2.50	4.00	16.00	1.00	0.00	19.00	9.00
水 痘	報告数	2	2				2					
	定点当り	0.13	0.13	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	6	4	1						3		
	定点当り	0.40	0.27	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	9	8	8								
	定点当り	0.60	0.53	1.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	11	11			5			1	4		1
	定点当り	0.73	0.73	0.00	0.00	2.50	0.00	0.00	1.00	4.00	0.00	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	1	1			1						
	定点当り	0.07	0.07	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	7	13	2	1	10						
	定点当り	1.17	2.17	0.67	0.50	10.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1			1						
	定点当り	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

2026年 第36週(08月31日～09月06日)

		第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器感染症	報告数	1060	1029	227	167	118	67	78	86	67	158	61
	定点当り	37.86	36.75	25.22	41.75	39.33	33.50	39.00	43.00	33.50	79.00	30.50

ARI定点:28、小児科定点:15(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数 (2026年 第01週～37週 保健所受理分)

2類感染症	結 核	99例(2)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	47例				
4類感染症	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	3例	つつが虫病	4例
	日本紅斑熱	10例(1)	レジオネラ症	12例		
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2例
	急性脳炎	2例	クリプトスポリジウム症	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8例	後天性免疫不全症候群	4例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例
	侵襲性肺炎球菌感染症	10例	水痘(入院例)	7例	多剤耐性緑膿菌感染症	2例
	梅毒	47例(1)	播種性クリプトコックス症	4例	破傷風	1例
	百日咳	52例	麻疹	1例		

()内は今週届出分、再掲